奈良市教育だより

きらめき☆奈良

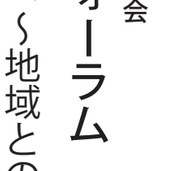
発行：平成27年3月
奈良市教育委員会

第8号

子どもたちには夢があります。未来があります。可能性があります。
私たちの大切な宝である子どもたちが、自らの力で輝き、地域や社会、未来を照らす光となるように、
奈良市ではさまざまな教育を行っています。
奈良市教育だより『きらめき☆奈良』では、奈良市の教育を紹介します。

2・3面 特集：「小中一貫教育全国サミットin奈良」プレ大会
平成26年度奈良市教育フォーラム
第6分科会 奈良市防災生徒総会～地域との連携～

4面
第4回「交流の集い」
なら教育の日
コラム：
給食と
イタリアの食文化



ニジーロ
奈良市教育センター
イメージキャラクター

なら教育の日

平成26年12月19日に「なら教育の日」記念集会を開催しました。

今年度は「自分の思いを世界に！～グローバル人材の育成をめざして～」をテーマに、海外での活動経験がある3人が自分の思いを発表しました。登美ヶ丘小学校6年生の竹村謙吾さんはサッカーの海外遠征のスペインチームとの試合、三笠中学校1年生の青木柚樹さんはブラジルでのロボットの世界大会への出場、一条高等学校3年生の駒川遥さんはカンボジアでのボランティア体験について語りました。それぞれの立場から感じたことを、自分の言葉で伝えた子どもたちの発表は、参加者に大きな共感をよびました。

グローバル化が進み、多様な価値観や文化の中で生きていく時代だからこそ、自分の思いを主張できる子どもを育てていくことが大切になってきています。

給食とイタリアの食文化

皆さんはイタリアと聞いてどのような食べ物を思い浮かべますか？有名なミネストローネは、日本における味噌汁にあたる具だくさんの野菜スープです。

ミネストローネといえばトマトを使うイメージが強いですが、特定のレシピがあるわけではなく、季節や地方によって様々な野菜が使われます。パスタが入ったものをイタリア風、米が入ったものをミラノ風、パスタと香辛料が入ったものをジェノバ風、いんげん豆が入ったものをトスカナ風と呼んでいます。ぜひ、皆さんが給食で食べるミネストローネは何風か考えてみてくださいね。

『学校給食のミネストローネ』

材料（4人分）
マカロニ 20グラム　じゃがいも1個　にんじん 1/2本
ホールコーン 40グラム　玉ねぎ 1/2個　ベーコン1枚
コンソメ小さじ1　だししょうゆ小さじ 1/2
こしょう少々　水2カップ
作り方
①材料を切り、ベーコンをから炒りする。
②玉ねぎ、にんじんを炒め水を入れてアクを取り、コンソメを加えて煮る。
③その他の材料を加えて煮、調味料で味を調える。

第4回「交流の集い」

2月21日に「地域で育てる　地域でつながる」をテーマにして、奈良市地域教育推進事業　第4回「交流の集い」をなら100年会館で開催しました。

今年も、22中学校区全ての取組をポスターセッションで紹介し合い、お互いに意見交換を行い、活発な交流を行いました。

また、学区ブランド産品の紹介や販売、企業・団体のブースの出展もあり、参加された約500人の方々との交流も深まりました。

開会式では、青山法義実行委員長が、「子どもたちのために、継続した取組を行っていきたい。この『交流の集い』では、意見や情報を交換し、ネットワークづくりをしていきたい。」と挨拶されました。

参加者からは、「多くの協議会の取組を知ることができ、自らの励みになった。」「地域の熱い力を感じた。」といった感想が寄せられました。

きらめき☆奈良については、奈良市教育だより　検索

記事に対するご意見やご感想等がございましたら、下記までお知らせください。

奈良市教育委員会事務局　教育政策課
〒630-8580　奈良市二条大路南一丁目1番1号
Tel.0742-34-5386　Fax.0742-34-4597

なら教育の日

おはよう　おかえり　こんにちは
声かけ　気にかけ　笑顔かけ
守ろう、地域の子どもたち
毎月17日は「子ども安全の日」です。

VEGETABLE OIL INK　R100
環境にやさしい植物油インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。

平成26年度奈良市教育フォーラム

地域と連携 防災生徒総会

奈良市では、平成24年度から文部科学省の「学校施設の防災力強化プロジェクト」事業の委託を受け、市内12中学校が防災力強化モデル校として、校区内の地域コーディネーターの方にもご協力いただきながら、各学校の実態に合わせた学校施設の防災対策などの活動を行っています。

富雄第三小中学校区地域総合防災訓練の様子

奈良市の学校施設の防災力強化プロジェクト事業は、
①中学生が自らの命を守るために、自分たちにできることを考える。
②中学生の防災に対する意識や防災リーダーとしての意識を高める。
③中学生が主体的に地域との関わりを深める。
ことを目的としています。その取組を交流し合う「奈良市教育フォーラム」の一環として、1月24日・25日になら100年会館中ホールで開催しました。

現地から学ぶ防災

防災生徒総会では、はじめに今年度新たに防災力強化モデル校になった春日中学校・京西中学校・都跡中学校・月ヶ瀬中学校の4校の生徒による仙台市現地視察報告が行われました。

生徒たちは平成26年12月6日・7日に東日本大震災の被害を受けた仙台市を訪問し、仙台市立西山中学校の生徒と意見交換したり、津波の被害を受けた小学校跡地を視察したりして、津波の恐ろしさを肌で感じてきました。

報告ではその時の様子や学んだことを発表し、現地の先生からの「生き抜くテクニックは大事。けれども一番は助け合いの心だ。」というメッセージと防災の大切さを訴えました。

ポスターセッション

それぞれの防災

報告の後は、防災力強化モデル校の生徒によるポスターセッションが行われました。

例えば、春日中学校からは、仙台市視察で話題となった「避難所生活で困ること」の解決策について発表がありました。また、京西中学校からは、自分たちの防災意識を高めることを目的に取り組んだ防災マップの作成や防災グッズの効果検証について発表がありました。他にも「地域と高める防災意識」や「普段あるものを活用した避難所づくり」などのテーマで、各学校で実施した防災対策の取組を熱心に報告しました。

防災生徒総会後のアンケートでは「中学生が防災についてしっかり考えていて、一生懸命発表している姿がとてもよかった。」「生徒のプレゼンテーション能力や防災に対する熱意を感じた。大人もしっかり学ばねばと思った。」といった声が寄せられました。

地域の実感

共に取り組む防災

学校施設の防災力強化プロジェクトは、生徒と教員だけでなく、地域コーディネーターの方々にも関わっていただきながら作り上げてきたプロジェクトです。今年の防災生徒総会では、ポスターセッション後に、中学生と一緒に活動してくださった地域コーディネーターの方から、「このプロジェクトに関わってから、生徒・学校・地域が防災に目を向け、それぞれの役割を果たしながら連携し、前進していると感じた。」「中学生から『学校には小学生もいるのだから、私たちが守ってあげなくてはならない。』という言葉を聞くことができた。地域と一緒に防災訓練をしたことで、生徒も成長することができたのだろう。」と、共に活動する中で見えてきた生徒の姿や思いなどを語っていただきました。

また、「中学生は、地域を変える原動力になる。」「生徒の『自ら考え行動する力』『具体的に行動する力』が伸びてきている。」といった感想もあり、本プロジェクトを通して、生徒の成長を感じた一日となりました。

文部科学省講評

中学生の力

防災生徒総会に参加いただいた文部科学省防災推進室長の磯山武司氏からは、「防災生徒総会は、防災力強化プロジェクトに取り組んだ様々な立場の皆さんが一堂に会し、ユニークな取組とその成果を共有できる良い機会になった。特にこの総会では奈良市の中学生が自ら考え、アイディアを出し合って様々な取組を行ってきた点が特徴である。この取組を通じて、中学生の皆さんの企画力、思考力、課題発見力が着実に育成されてきていると感じた。」との評価をいただきました。

防災力強化に大きな役割を担う中学生が、地域との連携の中でさらに成長し、地域と学校の連携がますます強化されることが期待されます。

小中一貫教育全国サミット プレ大会

今年度の「奈良市教育フォーラム」は「小中一貫教育全国サミットinなら」のプレ大会として位置付けて開催しました。1月24日は飛鳥中学校、飛鳥小学校、富雄第三小中学校で公開授業を、25日はぐくみセンター、なら100年会館を会場として分科会、全体会（シンポジウム）を開催し、2日間で、のべ二千人近くの参加者がありました。

なぜ今小中一貫教育がもとめられるのか!?

全体会では、小中一貫教育の制度化を進めている文部科学省の教育制度改革室室長補佐の武藤久慶氏から講演をいただきました。武藤氏は、小中一貫教育が取り組まれる背景に、

①子どもの発達が6・3制を始めたころに比べて早まってきていること
②小学校から中学校にかけて子どもの生活が激変する「中1ギャップ」への対応が必要なこと
③子どもの社会性を育む機能が学校も含め低下してきている現状があること
④小学校、中学校単独の取組に限界があること

の4点を挙げられました。

教育制度改革室室長補佐
武藤　久慶 氏

小中一貫教育の成果は?

また、文部科学省が実施した調査から、

○いわゆる「中1ギャップ」が緩和された。
○小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった。

などの成果が認められると説明され、講演の最後に、「小中一貫教育は、先生方や周りの方々が、学校のもつ限界と可能性を正しく認識して次につなげていくための制度であると思っています。」と締めくくられました。

教育長の「見る・聞く・語る」

平成17年度に田原小中学校で施設一体型小中一貫教育を始めてから10年。当時は「情報科」、「郷土『なら』科」、「英会話科」という新設3教科を設け、「郷土への誇り」、「情報活用能力・情報発信力」、「英語によるコミュニケーション力」など、これからの社会に必要となる力を育むことを目指しました。当時は全国に先駆けた取組でしたが、今では全国に広がり、国も小中一貫教育のしくみを制度化しようとするまでになりました。

奈良市では、来年度全ての小中学校で小中一貫教育を行います。取組の様子は、平成28年1月に奈良市で開催する全国サミットで報告します。

今後も「地域全体で子どもたちを守り育てる体制」を強みとし、小中一貫教育に取り組んでまいります。保護者の皆様も地域の方々も、校区の子どもたちのために、学校とともに取り組んでくださるようお願いします。